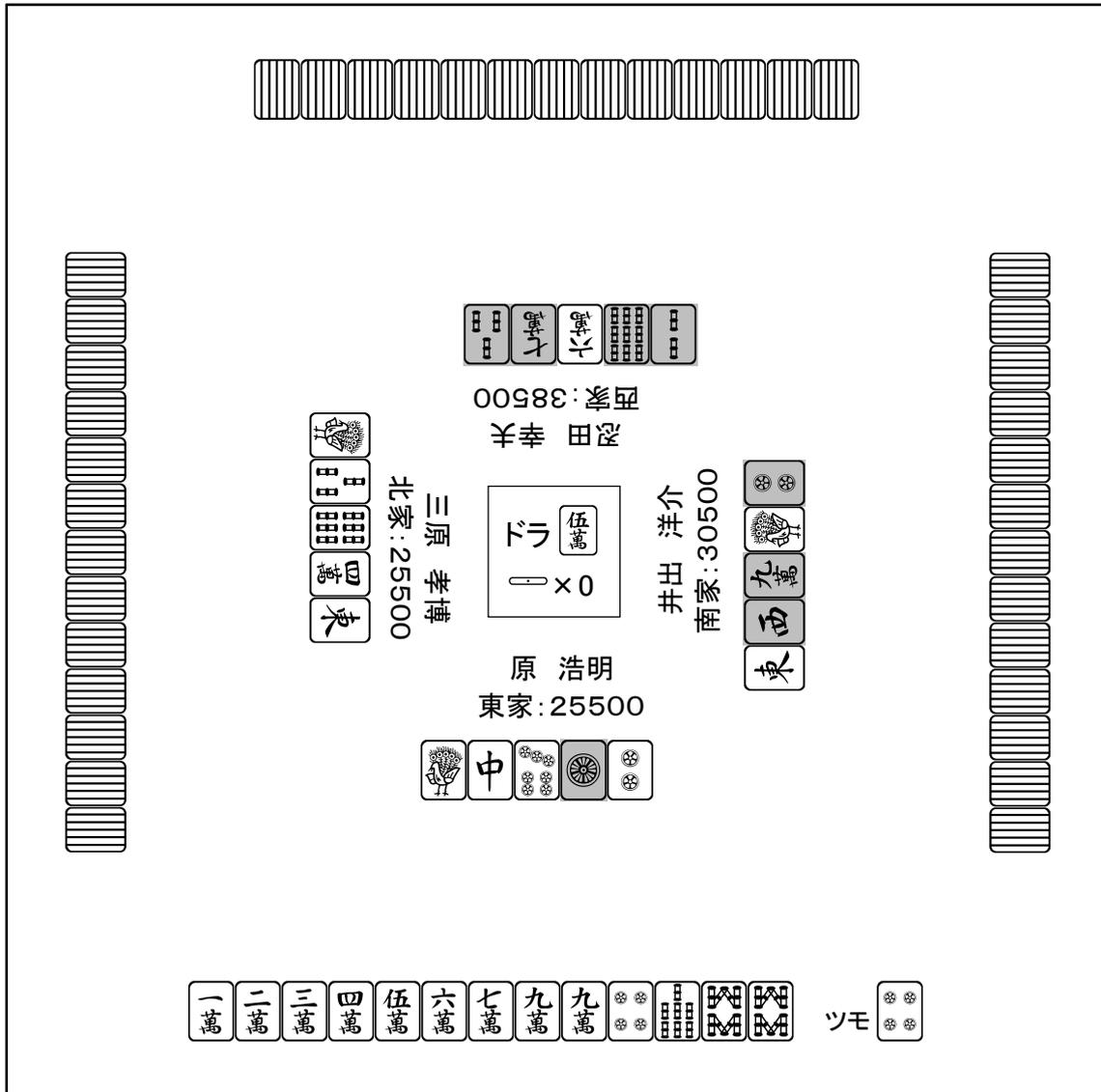


第1回 BIG1カップ 決勝2回戦 東3局その1 6巡目



南家はツモ切りで特に情報なし。

西家は、 ツモ切りで、ピンズの一色手の可能性がより高くなった。(ピンズ以外の中張牌が多く出すぎているため)

問題は北家。まだ1枚切れの 手出しなので、こちらはピンズの一色手とは限らない。配牌から好形で、 を絞っていただけかも知れないためである。

しかし、自分もツモ で苦しいピンズがアタマになって、イツツー含みの広いイーシャンテンになった。

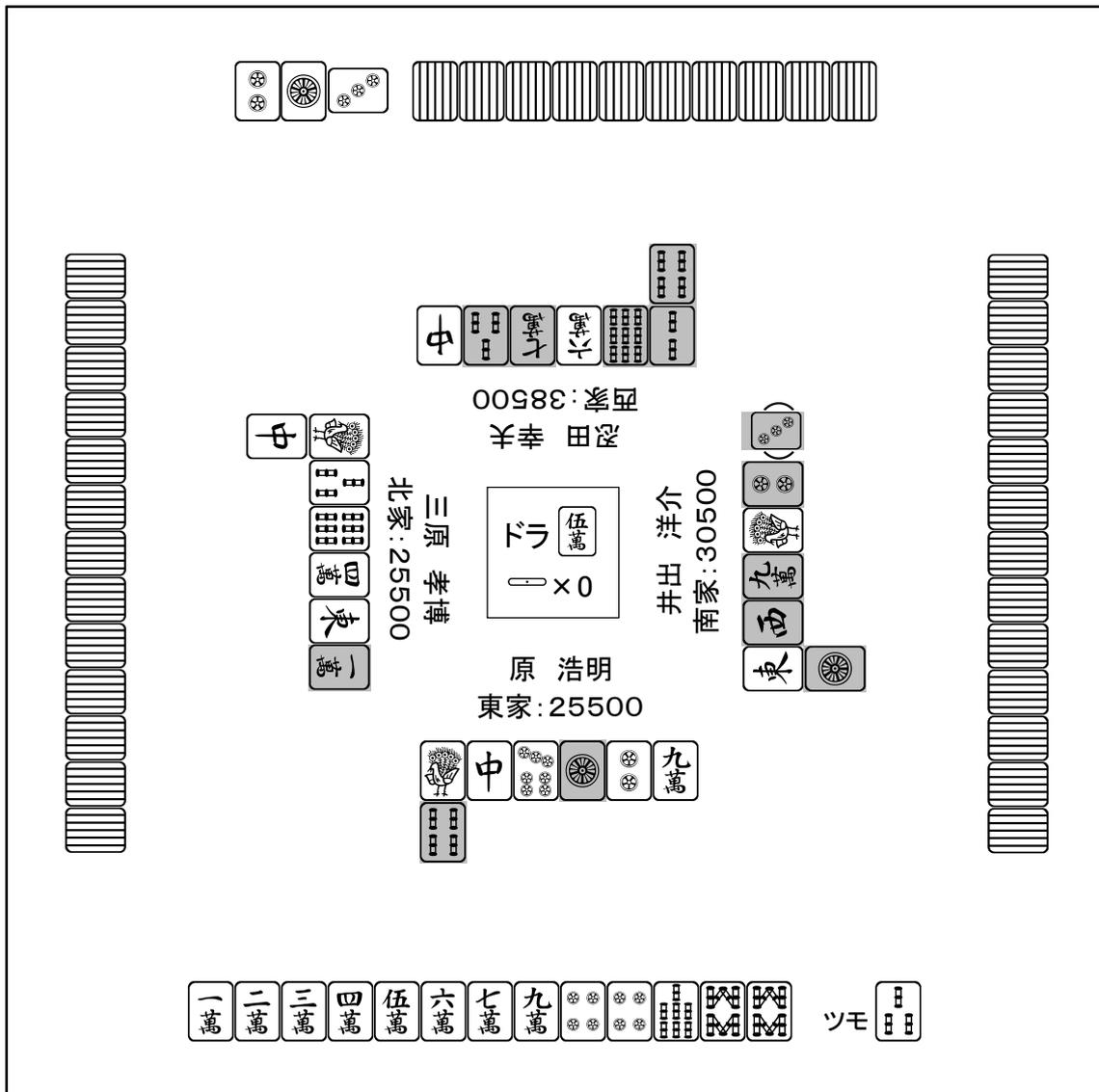
北家は気になっても、この手なら自分のアガリを優先して考える。

ここでソバテンになるのを嫌って、先に を切りソーズをリャンメンに決めると、ツモ や でイツツーの崩れる役無しテンパイになってしまう。

せっかくの高得点のチャンスなので、ここはイツツーを確定させ、ツモ や でもテンパイを組めるように 切りとした。

一発や裏ドラがないルールでは、2翻役の価値がかなり大きくなる。

第1回 BIG1カップ 決勝2回戦 東3局その1 8巡目



南家は、ピンズの一色手をやっている西家に対し、 ツモ切り。

しかし、この はピンズの中では大して危険ではないので、攻めているとも守りにいったとも言えない。 が鳴かれるとしたら、シャンポンはないので、リャンメン()だけであるが、その も3枚見えていて、可能性は低い。もちろん 単騎の放銃の可能性もあるが、いずれにしてもそれほど高い可能性ではないだろう。

また北家が を手出ししてきた。 と を両方持ちながら、1～2巡目にソーズのカンチャンを嫌ったとするならば、その場合は早い手ではなくやはりピンズの一色手が主眼なのであろう。

5巡目の 切りのときに を引いただけかも知れないので、断定はできないが、さきほどよりはピンズの一色手の可能性が高くなってきた。

この巡目の も全く必要ない牌なのでツモ切り。

また、食い伸ばしとなる  からの  チは一、4巡目の  手出しよりさらに可能性が低くなる。

4巡目の段階で  と持っていたのに、 を切り、フリテン含みの  を残したまま、次巡の  をツモ切ったというのは考えにくい。

つまり、ここで南家に対して、 はかなり切りやすい牌なのである。(カン  ということはあるので、完全にというわけではないが)

もちろん南家がソーズを全く持っておらず、 も  も関係ない場合も多い。しかし、こういう細かいことの積み重ねが、長い目で見て大きな差となってくる。

これは、チーされたときのパターンとして覚えておいて良い形と言える。このパターンは丸暗記するのではなく、 をチーされた後に、 か  のどちらを切ろうか迷ったら、先ほどの思考をすれば良い。

ここで  が鳴かれるとすると、手の内に  と持っていることになる。すると、 をチーする前は  と持っていたということになる。

一方、 が鳴かれるとすると、手の内に  と持っていることになる。すると、 をチーする前は  と持っていたということになる。

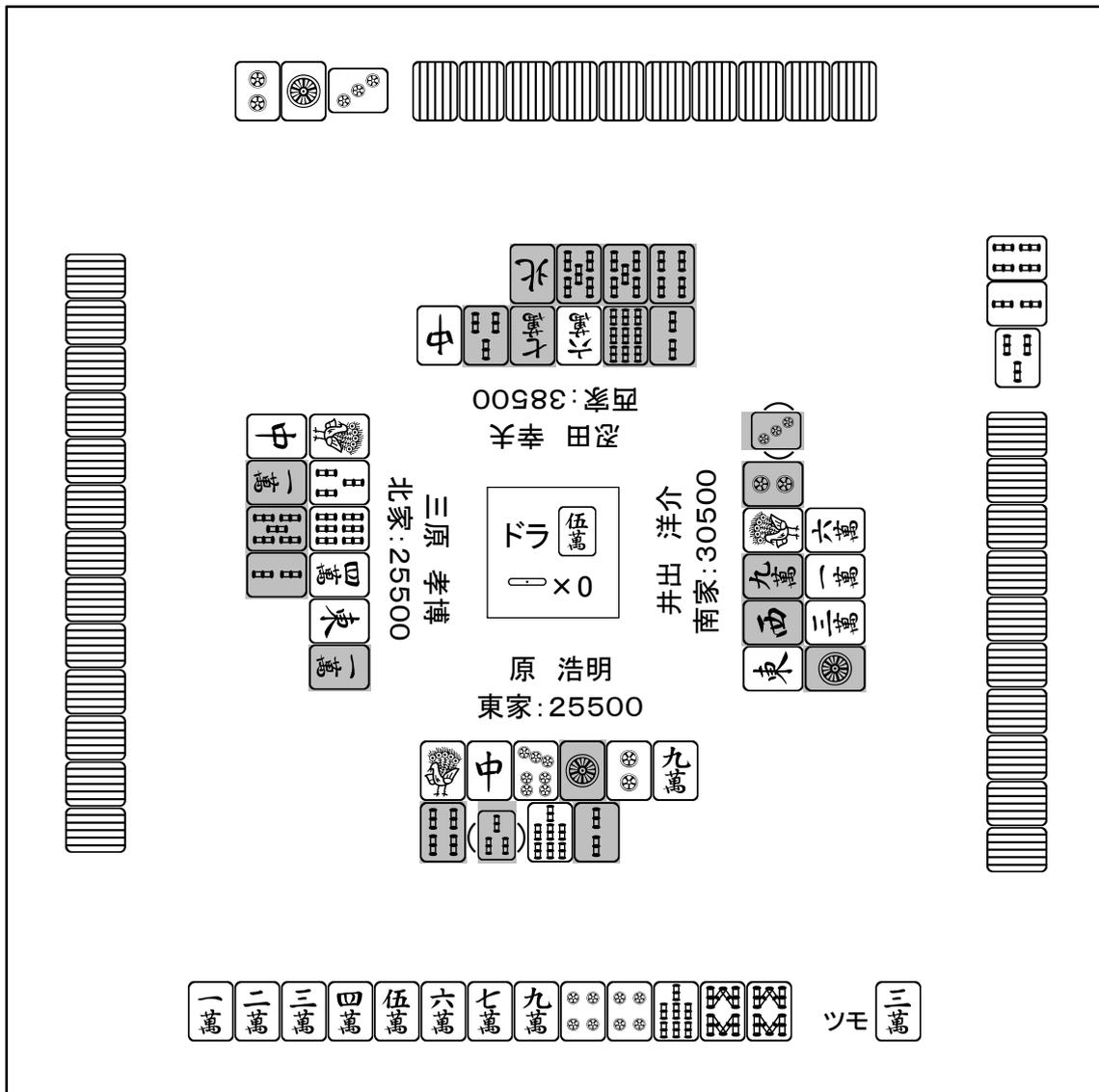
どちらの可能性が高いだろうか？ と。

最初はいちいち考えると時間がかかって仕方がないと思われるかも知れないが、何度も繰り返してこの思考をすることで、慣れてきて早い判断を下せるようになる。

この一手前を考える作業に慣れると、他の場合にも応用できるので、丸暗記ではなく一手前の形を考える習慣をつける方が良いでしょう。

第1回 BIG1カップ 決勝2回戦

東3局その1 11巡目



南家の 六萬 手出しは、ドラを引いた可能性が高い。 $(\text{六萬} \text{六萬} \text{に} \text{伍萬} \text{ツモで} \text{伍萬} \text{六萬} \text{になったか、} \text{伍萬} \text{六萬} \text{に} \text{伍萬} \text{ツモで} \text{伍萬} \text{伍萬} \text{になったか})$

これは、ドラが余るような $\text{伍萬} \text{六萬} \text{六萬}$ という形のままで、安全度の高い 一萬 を先に切らないであろうためである。 $(\text{六萬} \text{六萬} \text{に} \text{七萬} \text{をツモって} \text{六萬} \text{切りという可能性はあるが})$

西家は相変わらずツモ切りが続き、新しい情報はない。既にテンパイが入っているのか、イーシャンテンのまま変わっていないのか。

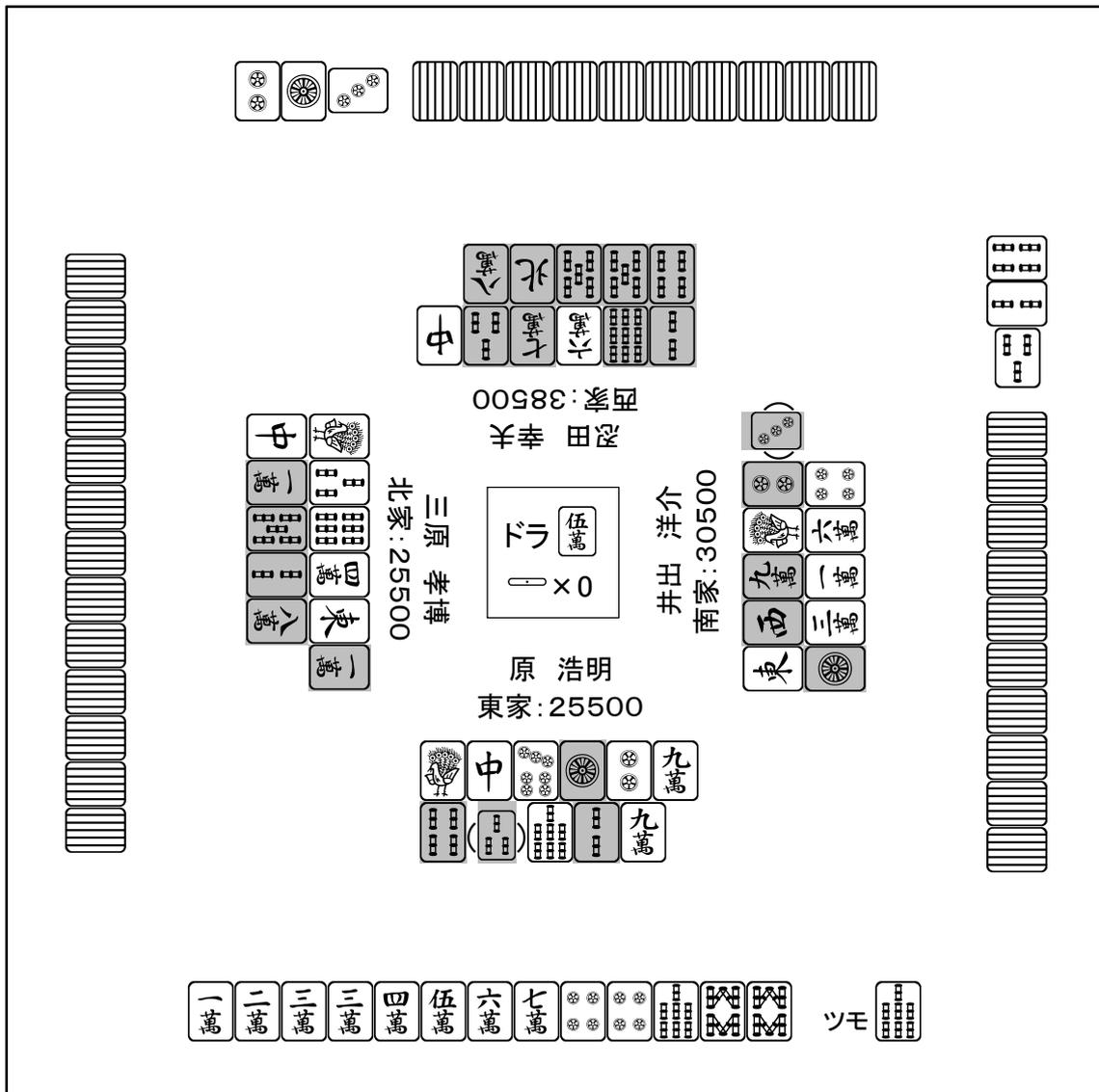
北家も、ツモ切りが続いているが、特に危険牌をツモ切りしているわけでもないの、こちらも何とも言えない。

ここで、自分はツモ 三萬 。あくまでイッツーにこだわるならツモ切りだが、ドラ受けもできる3メン待ちになるので、ここでイッツーを見切って 九萬 切り。

ドラ受けと3メン待ちになるのはメリットだが、デメリットはイッツーならば鳴いてテンパイを取れるが、 九萬 を切ると鳴いて役ありテンパイには取れないこと。

第1回 BIG1カップ 決勝2回戦

東3局その1 12巡目



南家から の手出しがあった。

これは下家の西家に鳴かれる可能性も、放銃になる可能性もある牌だけに、勝負に来た牌ということが分かる。すなわちほぼテンパイであろう。

また の手出しで、西家も南家のテンパイを察したであろう。にもかかわらず西家は のツモ切り。これは南家に安全なわけではないので、西家もピンズの一色手で、それなりの手になっているのであろう。

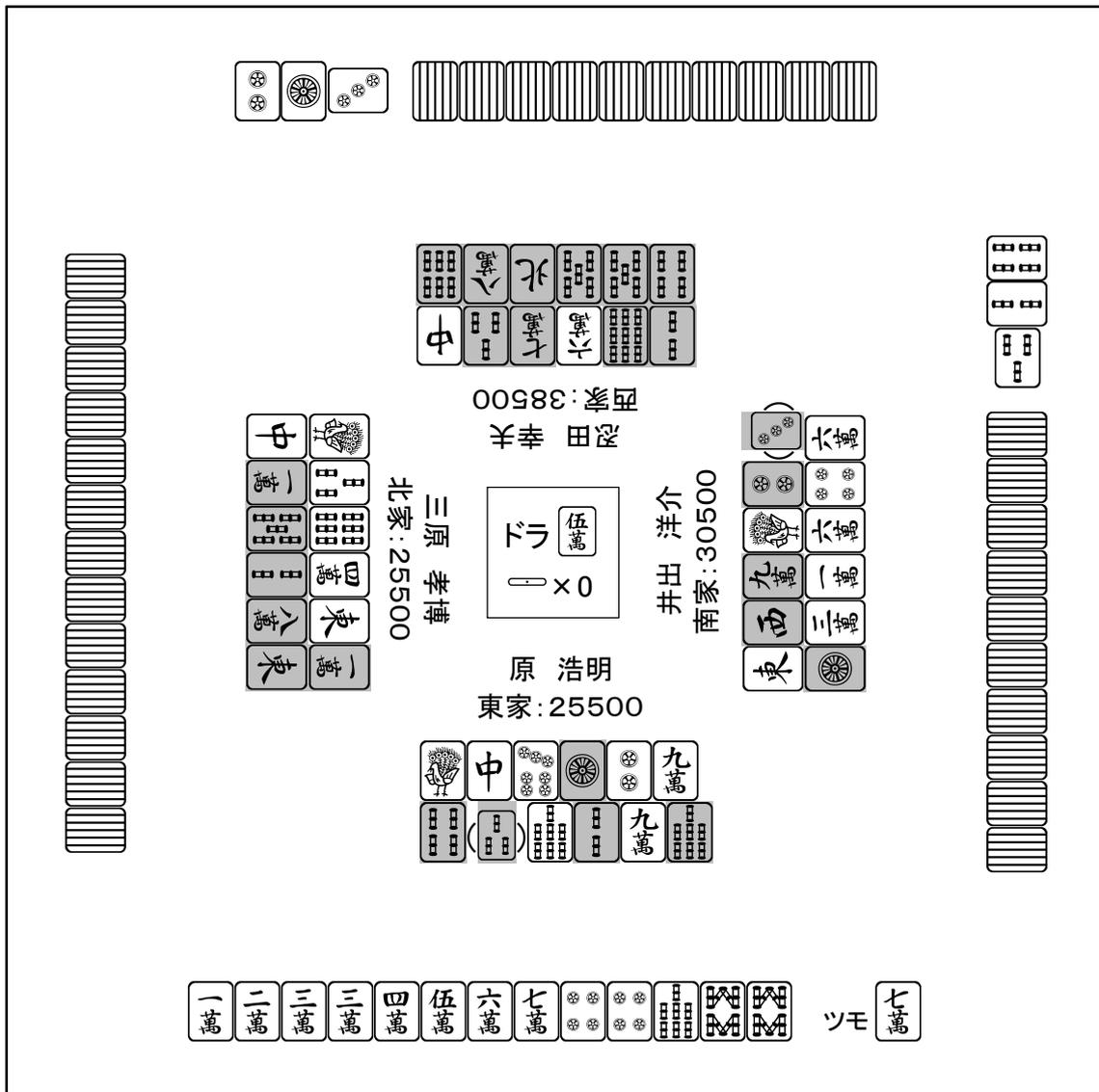
北家も合わせ打ったのか分からないが、 をツモ切り。前巡イツーを見切ったため仕掛けられない。南家にテンパイが入り、西家も押ししてきたこの巡目なら、イツー目が残っていればチーしてテンパイに取っていたかも知れない。

一方、自分のツモは でテンパイを逃した形だが仕方がない。9巡目と同じ理由で は切りやすいので、そのままツモ切りしておく。

ノーテンから2人に対し危険な牌を切りたくはないので、この後通っていないピンズを引かされたらオリることになるであろう。

第1回 BIG1カップ 決勝2回戦

東3局その1 13巡目



南家から **六萬** の手出しがあった。自分の手牌に1枚、捨て牌に3枚 **六萬** が出たので、これが4枚目の **六萬** となる。前巡の **二萬** でほぼテンパイだとすると、この **六萬** は何であろうか？

考えられるのは3パターン。

1つは **伍萬** **六萬** のリャンメンにドラの **伍萬** をツモって、**六萬** 切りでシャンポンに待ち替え。

もう1つは **四萬** **伍萬** **六萬** に **三萬** をツモって、**六萬** 切りで **三萬** **四萬** **伍萬** にしたメンツのスライド。

あと1つは、西家に打てない牌をツモってオリた。

ほぼ、この中のどれかであろう。手出しであることと、4枚目の **六萬** であることが大きなヒントとなっている。(**六萬** **七萬** にツモ **七萬** は、**七萬** が自分から3枚見えているのでない)

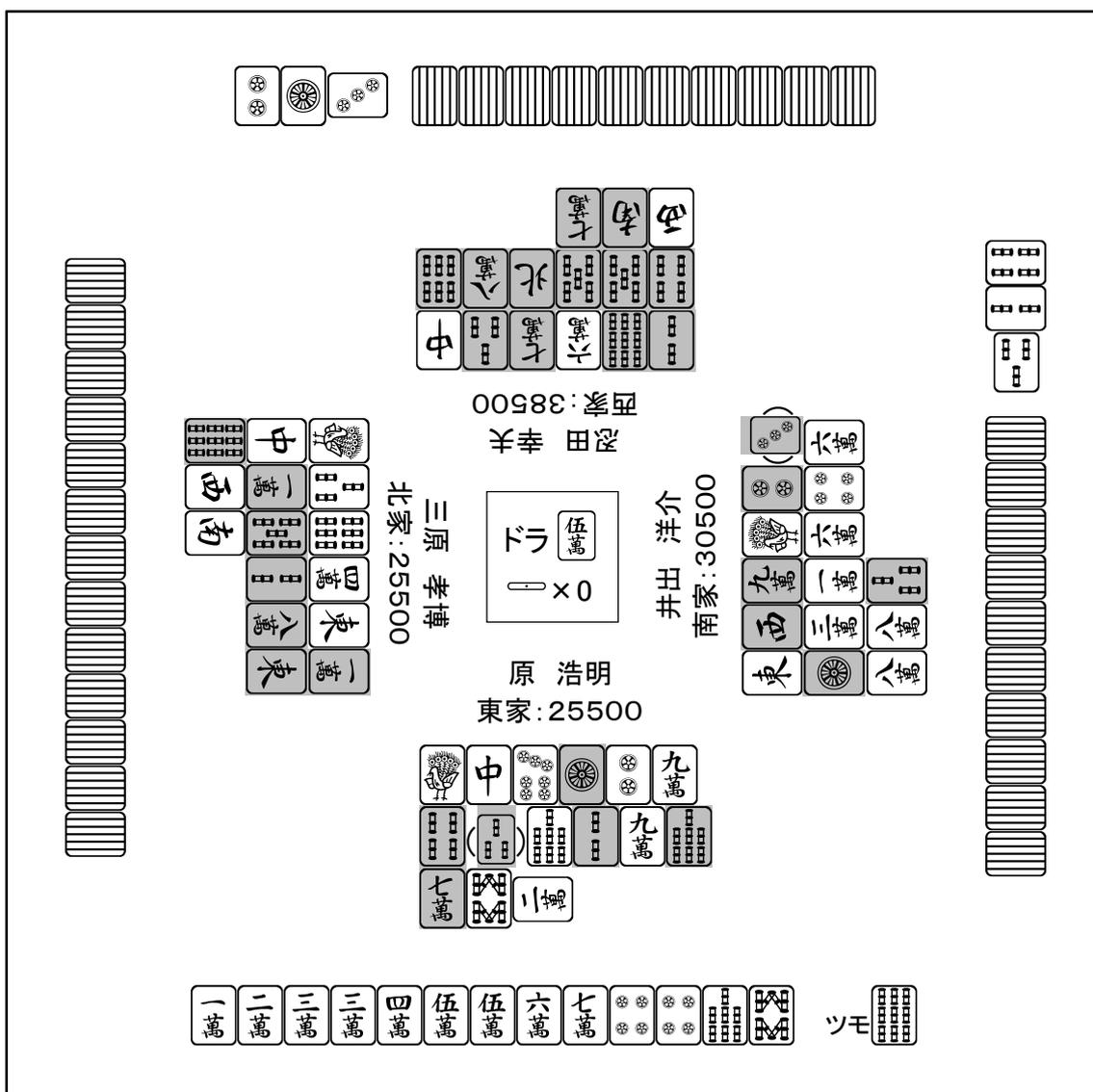
西家は **三萬** ツモ切りで、まだ押している。危険な牌でもある程度押していたので変わらないが、南家の **六萬** 手出しがオリた可能性もあるので、より押しやすくなったであろう。

北家は **東** のツモ切りだが、これは3枚目なので、押しているかどうかは分からない。

自分は、ツモ **七萬** の不要牌。前巡までだったら、南家に切りにくいところだったが、4枚目の **六萬** が見えたおかげで、ほぼ安心してツモ切りできた。シャンポンもないので、単騎待ちくらいにしか当たらない。

第1回 BIG1カップ 決勝2回戦

東3局その1 16巡目



3人が現物を捨ててきているが、南家と西家はツモ切りなので、オリているかは分からない。しかし、狙いのをツモって、一発役はないが文句なく4000オールのアガリとなった。

…と、このような感じで、全巡目を解説していきます。

いかがだったでしょう。

書いてある解説は、「最初から最後まで全部納得！」とはならなかったかも知れません。

ただ、それで良いと思います。「本当かな?」「いや、自分はこう思う」「こういう可能性もあるのでは?」そのような視点で見ても考えていただければ、それが勉強になります。

鵜呑みにせず批判の目を持ちながら読んでいただき、勉強のきっかけになれば幸いです。

このような牌譜解説に興味のある方は、<http://www.1jann.com/pro/>にて販売しておりますのでご覧ください。

今回は東3局その1のみを解説いたしましたが、そちらにある牌譜解説は、半荘1回全ての局全ての巡目に関して、このような解説をしています。

